

■全体講評

午後Ⅰ記述式問題では、改正された電子帳簿保存法を踏まえた、新傾向問題が問2として出題されました。採点では、問題間の正答率の偏りも少ないという結果でした。以上を根拠に、問題選択に起因する得点力評価の誤差を抑えることができ、適切に受験者の得点力を評価できたと判断します。

午後Ⅱ論述式問題では、問1“運用管理体制に関するシステム監査”の設問イでは“人員面の状況を踏まえて”、及び、問2“パブリッククラウドサービスを導入する場合の監査”の設問イでは“クラウドサービスの導入効果を高めるために実施すべき運用時のコントロールについて”などと、設問で論点を具体的に指定しています。このように問題で求めている論点が鮮明であることから、受験者の読解力と専門的知識を使った解答の構成力が求められることを根拠に、適切に受験者の得点力を評価できたと判断します。

■午後Ⅰ記述式試験講評

3問中2問の選択になります。問1は“モバイルコンピューティングの企画段階における監査”，問2は“電子帳簿保存に関わるシステム監査”，問3は“個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査”です。システム監査技術者試験の午後Ⅰ記述式試験では、このように、テーマや業種が広範囲に出題されています。自分の経験や専門知識を活用できるテーマを選んで解答することが重要です。

問題の選択について言及します。具体的には、基本的には問1、問2を選択する受験者が多いです。受験者の技術レベルや知識レベルは皆さん異なります。そのため、あなたにとって解きやすい問題が問3に出題されるかもしれません。本試験では、問3まで問題の概要を確認するとよいでしょう。

次に記述式問題における確認項目を列挙して説明します。

(1) 監査手続を適切に記述できる

監査手続を適切に表現できなければ、この試験の合格は難しいです。記述式問題において監査手続を問われた場合は、監査手続をしっかりと書けるようにしておきましょう。

(2) 問題文を読みながら監査証拠になり得るドキュメントなどを識別できる

問題文を読みながらドキュメントの名称をチェックしておきましょう。

(3) 設問文に含まれている、解答を導くための記述を識別することで正答できる

文章が長い設問では、それだけ解答を導くための記述が多い可能性があります。その場合、しっかりと解答導くための記述を識別することが重要です。

記述式問題の点数は、ボーダーラインである60点付近に集中します。以上の内容に留意して、解答を作成しましょう。筆者は、本試験において解答時間が余ったら、**解けたと思っている解答を含めて見直すことが重要**と考えています。

■午後Ⅱ論述式試験講評

2問中1問の選択になります。問1のタイトルは“運用管理体制に関するシステム監査”で、ポイントは設問イにおいて人員面の状況を踏まえて論旨展開することです。問2のタイトルは“パブリッククラウドサービスを導入する場合の監査”で、ポイントは設問アで述べたクラウドサービスの導入効果と課題を踏まえて、設問イにおいて“クラウドサービスの導入効果を高めるために実施すべき運用時のコントロール”について論じることです。

基本ができていないと午後Ⅱ論述式試験突破は難しいです。午後Ⅱ論述式試験では、次の点を確認してください。

- (1) 名詞を問うている場合、あるいは、箇条書のタイトル以外では、体言止めを使用しない。
- (2) 略字を使用しない。
- (3) 禁則処理を行う。
- (4) “である”調に統一する。
- (5) “お客様”，“いただく”，“～殿”などの敬語は使わない。
- (6) 問題冊子や解答用紙で指定された方法で問題を選択しているかを確認する。
- (7) 解答冊子における、設問イやウの論述開始箇所を確認する。
- (8) 「実績と実績」，「購買と購買」，「概要と概用」，「相談と想談」，「当該と当核」，「部門と部問」，などの誤字がないか，「要員」と「要因」を書き間違えていないか，見直す。

システム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、出題範囲が広いために、ポイントを絞った事前学習が難しいです。まずは、正しく**監査手続を記述できる**ことが重要です。

基本的な論述の仕方ですが、論述における確認すべき

点を挙げておきます。

- (1) 受験者が書きやすいのではない、採点者が採点しやすい設問文に沿った章立てをする。
- (2) 採点者が採点しやすいように、設問文にあるキーワードを使って論述する。
- (3) 設問文だけを見るのではなく、問題文の趣旨に沿って論述する。

具体的ではない監査手続が散見されます。実際に自分が、誰かから監査手続を指示されて、その監査手続を実施できるように、具体的に表現することが重要です。

■問題ごとの午後 I 記述式試験講評

問1 モバイルコンピューティングの企画段階における監査

この問題では、設問文にある解答条件を満たす解答を作成することが特に重要となります。具体的には、設問3において「データセンター上の情報システムについて」が該当します。この設問では、タブレット端末の障害を含めると、この解答条件を満たさないこととなります。設問文にある解答条件を全て満たす解答を作成するようにしましょう。

【採点基準】

[設問1]

“機密性”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。“機密性”というキーワードがない趣旨に合っている解答は部分点5点。その他は、基本的に0点。

[設問2]

解答例の趣旨に合った解答であれば各10点。その他は、基本的に0点。

[設問3]

解答例の趣旨に合った解答であれば11点。その他は、基本的に0点。

[設問4]

解答例の趣旨に合った解答であれば各3点。その他は、基本的に0点。

【講評】

[設問1]

設問文にある「社外利用が前提」及び「営業効率の検討だけでは不十分」という記述を根拠に、社外利用における機密性の検討が必要と考え、“機密性”を含まない解答については、厳しいですが、趣旨に合っても、部分点5点としました。

[設問2]

高い正答率でした。

[設問3]

設問文に「データセンター上の情報システムについて」という記述を根拠にタブレット端末本体に関わる障害を含めている解答は、厳しいですが、不正解としました。

[設問4]

解答例の趣旨に合った解答は正解としました。

問2 電子帳簿保存に関わるシステム監査

設問にあるキーセンテンスに着目して解答を導けるようにしておくといいです。具体的には、設問1が該当します。設問にある“電帳法に則った”に着目して解答を導きます。

ステータスに関わる記述に着目してキーワードを解答に盛り込むといいです。具体的には、設問2が該当します。[経営企画室へのヒアリング結果] (3)にあるステータスに関する記述から、解答に必要な“生成済”というキーワードを導きます。

問題文にあるキーワードを省略しないで、そのまま使って解答を書くといいです。具体的には、設問3が該当します。“PDFファイル”を“PDF”とする解答が散見されました。厳しいですが、不正解としました。

設問で“理由”を問われた場合は語尾が“～ため”あるいは“～から”などと解答するようにしましょう。具体的には、設問4が該当します。理由が問われているにもかかわらず、対策などを書かないようにしましょう。

【採点基準】

[設問1]

“対象となる文書”，“ファイル名”，“文書の保存期間”の三つを必須とし解答例の趣旨に合った解答であれば7点。その他は、基本的に0点。なお，“対象となる文書”の代わりに“対象となる書類”でも可。

[設問2]

厳しいですが，“生成済”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば7点。その他は、基本的に0点。

[設問3]

“請求書”と“PDFファイル”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

[設問4]

“確実に確認できる”旨を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

[設問5]

“部として確認していない”旨を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

[設問6]

“対象でない書類が混入する”旨を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

【講評】

[設問1]

“対象となる文書”，“ファイル名”，“文書の保存期

間”の三つを必須とし、これらのキーワードを含まない解答は不正解としました。

[設問 2]

厳しいですが、“生成済”を含まない解答は不正解としました。

[設問 3]

厳しいですが、“PDF ファイル”を“PDF”と表記した解答は不正解としました。

[設問 4]

“確実に確認できる”旨が含まれない解答、例えば“確認できる”だけの解答は不正解としました。

[設問 5]

正答率の低い設問でした。

[設問 6]

“対象でない書類が混入する”旨が含まれない解答は不正解としました。

問3 個人情報を取り扱う業務の一部を外部委託する場合の監査

問題にあるキーワードを解答に盛り込むようにしましょう。具体的には、設問 1 において“個人情報保護法”というキーワードを含まない解答が散見されました。設問条件を満たさない解答は部分点もない可能性があります。必ず設問条件を確認してから解答欄に解答を書き込むようにしましょう。

文書が適切にメンテナンスされているか、という観点からも解答を導けるようにしておくといえます。具体的には、設問 2 が該当します。表 1 項番 3 の“K 社からの追加要求事項の内容を確認する”という記述から、“追加要求事項が反映されていること”という解答を導くという流れを確認しておきましょう。

問題にある最初の部分の記述に着目しておくといえます。具体的には、最初から二つ目の段落の「B 社のコールセンターの受注業務は、電話での注文を受付、K 社の顧客管理システムに注文を入力する業務である」という記述です。設問 4 では、顧客管理システムは B 社側ではない点に留意して解答を作成します。

【採点基準】

[設問 1]

“個人情報保護法”と“利用目的”を必須とし、解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 2]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問 3]

解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。“画面を見

ない誓約を交わす”など、守秘義務から少し外れた解答は部分点 5 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問 4]

(1) 解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例の趣旨に合った解答であれば 10 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

[設問 1]

設問文で指示されている“個人情報保護法”というキーワードのない解答が散見されました。趣旨が合っても“個人情報保護法”と“利用目的”という二つのキーワードのない解答は、厳しいですが、不正解としました。正答率の低い設問でした。

[設問 2]

正答率の低い設問でした。

[設問 3]

“画面を見ない旨の誓約を交わす”という解答については厳しいですが、不正解としました。守秘義務に寄せた解答を正解としています。

[設問 4]

(1) 顧客管理システムを稼働している K 社から B 社に提供する情報の内容について問われている点に着目して解答を導きます。顧客管理システムのログに関わる解答だけを正解としました。解答例にある“ログイン時間”と“ログオフ時間”の代わりに、問題文にある“顧客管理システムのログ”という表現でも正解としました。

(2) K 社から提供されないと B 社側には、顧客管理システムのログはない点に留意して解答を作成する必要があります。解答例にある“就業開始時間”と“退社時間”の代わりに“就業時間”という表現でも正解としました。

■合格に向けての学習

〔午後 I 記述式試験〕

公開模擬試験の結果を見直しましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析するとよいでしょう。

〔午後 II 論述式試験〕

公開模擬試験の結果を見直したら、弱点を自己診断して対策を講じましょう。

IPA の採点講評を読むと、本試験においても監査手続を書けない受験者が散見されることが分かります。本試験までに、しっかりと監査手続を書けるようにしておきましょう。

本試験当日のシステム監査技術者試験の午後 II 論述

式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしましょう。

■IPA が発表した採点講評の確認

IPA 発表の令和 4, 5 年本試験の講評を確認して、合格の可能性を上げておくようにしましょう。例えば、令和 4 年午後Ⅱ問 2 の採点講評を読むと、監査手続について問われていない場合、監査手続を書くの良い評価が得られないことが分かります。

■本試験での注意点

本試験での注意点を次に説明します。

(1) 終わった試験を気にしない

記述式試験が終わったらあきらめて帰るという受験者がいます。筆者が担当するセミナーでも記述式試験終了後に帰る方がいました。後日、試験結果を確認すると、実は 60 点以上で足切りではなかったこともあります。このようなことは、筆者が講座を担当する IT ストラテジスト、システムアーキテクト、プロジェクトマネージャ、システム監査技術者試験の中でも、特に当該試験区分に多いです。後日その受験者はヒアリングしたところ、提出した解答用紙の空白部分が多く 60 点以上とは到底想像できなかつたようです。

(2) 記述式試験では 3 問とも、論述式試験では 2 問とも概要を確認

本試験では、記述式試験では 3 問とも、論述式試験では 2 問とも、問題の概要を確認してから、解答する問題を選択しましょう。

(3) 知的体力の適切な配分

本試験は、開始から終了まで長時間行われます。自宅などで行った、公開模擬試験で体験した集中力の低下などを参考にして、試験開始から午後Ⅱ論述式試験が終了するまで、知的体力を上手に配分して、論述式試験の途中で力尽きて集中力を低下させないようにしましょう。

(4) 論述式試験では最後の設問ウに注力

設問ウの最後で集中力の低下したような論述内容が散見されます。採点者は、その集中力の低下した論述内容を読んでから、採点を始めます。最後まで集中して採点者に知的体力をアピールしましょう。

(5) 他人事ではない、問題選択の記入漏れや不適切な問題選択

記述式や論述式問題では“問題番号を○で囲っていない”などの問題選択に関するミスがあります。本試験では、公開模擬試験のように解答を読んで問題選択漏れやミスを修正してはくれません。問題選択の記入ミスや漏れを他人事と思っていないか。筆者は論述式試験において終了直前に記入漏れに気付いたことがあります。本試験では解答提出前に最終確認を必ず実施しましょう。

合格に向けて、がんばりましょう。

—以上—